

めざす子ども像

- ・ 学びを大切にする園児・児童・生徒
- ・ 仲間を大切にする園児・児童・生徒
- ・ 命を大切にする園児・児童・生徒

取組目標

豊かな心を育み、地域を大切にし、たくましく生きる力を持った子どもの育成をめざす学校支援活動の促進と地域全体で展開する美しく、安全・安心な繋がる地域づくり。

- ・ 子どもも大人も生き生きできる地育
- ・ 共育活動の創造・地域と学校園が手を携えた防災教育を進める。
- ・ 結ぼう地域の絆「豊かな心、しなやかな学び、確かな安心」

今年度の取組紹介

◆地域防災・減災への意識を高める取組の一つとして、「防災フェスタ in 富南」の開催を継続していることで、生徒、児童の防災への意識も高くなり、地域との結びつきも強くなってきています。この取組で、地域の方との打ち合わせも生徒から意見が出るようになり、当日に運営スタッフとなった生徒たちは、個々が自分で考え動けるようになってきています。

◆昨年度から教員のアドバイスを受けながら、子どもたちが中心となり取組んだボランティアサークルのブランド商品につながる取組、「とみにゃん」ストラップと、ハート形のパンケーキは好評で早い時間で完売となりました。

◆今年度マスコット「とみにゃん」のテーマソングの作詞作曲を授業の一環として取り組み、完成。防災フェスタで披露されました。

◆小学生にもボランティア意識が高まり、防災フェスタでスタッフとして活躍してくれる児童が出てきました。

◆昨年度実施できなかった漢字検定を行いました。家庭で親子が同じ目標を持ち、家庭での会話を持つ良い機会になりました。



今年度のまとめ

「防災フェスタ in 富南」を積み重ねてきたことで、子どもたちの防災への意識も年々高まり、自分たちがどのように動けばよいのかを自ら考える力も大きく身に付けてきています。また、防災フェスタで出会った方へのあいさつも増え、地域とのつながりも少しずつではあるが強くなってきています。中学校区に定着してきたマスコットキャラクター「とみにゃん」を使っての校区産品を作ろうと生徒会やボランティアサークルが教員や地域と一緒に考案した産品も好評で、製品を安定して作る大変さを経験できました。小学生にも中学生のボランティアとしての動きが響き、自らお手伝いを申し出る子が出てきました。

来年度に向けて

防災フェスタ、とみにゃんコンサート、漢字検定の継続と、中学校で定着してきたボランティア活動を各小学校にも拡大し、自ら考え行動できることは勿論のこと、リーダーシップの取れる子どもの育成への取り組みを行っていきます。

防災フェスタについては、お祭り部分と学習部分の見直しが必要な部分も出てきています。

めざす子ども像

学びを大切にする園児・児童・生徒

仲間を大切にする園児・児童・生徒

命を大切にする園児・児童・生徒

取組目標

子どもたちが地域とのつながりを意識できる

学習環境整備・取組を充実する。

今年度の取組紹介

- 『とみにゃんコンサート』、『防災フェスタ in 富南』といった地域教育協議会主催行事に、多数の生徒や教職員が部活動単位で協力および積極的に参画しており、地域との協働体制が整ってきています。また、吹奏楽部やギター・マンドリン部への地域からの演奏要請も増え、生徒たちの地域行事への参加、交流の場が広がりをみせています。

地域キャラクター「とみにゃん」の知名度も高くなってきており、中学校としても広報に力を入れています。今年度は、本校の生徒が作詞・作曲した『とみにゃんの歌』が完成し、



←とみにゃん

♪みんな

大好き

とみとみ

とみにゃん

♪



↑とみにゃんグッズ

- 環境整備・栽培事業では地域の人的・物的支援をいただき、地域の「花いっぱい運動」と生徒会活動、ボランティアサークル「とみにゃんクラブ」の活動により、温もりのある学習環境づくりを進めることができます。「とみにゃんクラブ」は、とみにゃんグッズ製作や地域行事のお手伝い等も行い、活動の幅を広げてきています。

- 地域人材の協力を得ながら実施しているキャリア教育事業(福祉体験・職場体験学習等)は、子どもたちが将来の職業を考える指針となっています。事後学習では地域人材の情報教育活動支援を得ながら発表準備をし、さらにポスターセッションにつなげていきました。地域の方々の協力により、



↑教育活動支援(情報教育支援)

生徒たちの表現力とコミュニケーション力を高める機会をつくることができます。

今年度のまとめ

教育活動支援事業(情報教育・特別支援教育支援等)やキャリア教育支援事業(職場体験・福祉体験等)等で、地域の方々や地域事業所等の支えによる学習活動が定着してきています。

地域行事や地域教育協議会主催の行事に積極的また自然の流れとして参加・協力する姿勢をもつ生徒・教職員が増えており、事業の取組が地域と生徒・学校、双方向の活性化、地域活動・学校活動それぞれの活動の認知や理解につながってきています。

来年度に向けて

地域とともに子ども達を育成する視点を大切に、いろいろな協働活動を通して、社会とのつながりや思いやりを感じ、自ら学び行動できる力をもつ生徒を育てていきたいです。

『とみにゃんの歌』を校区内のこども園・幼稚園・小学校にも広め、子どもの成長とともに地域活動が広がっていくよう、キャラクターを活かした広報活動をさらに充実させていきたいと思ひます。

めざす子ども像

学びを大切にする園児・児童・生徒 仲間を大切にする園児・児童・生徒 命を大切にする園児・児童・生徒

取組目標

- ・読書に親しみ、豊かな心と言語力を育てる
- ・地域の方々とのふれあいを通して、コミュニケーション能力を高める

今年度の取組紹介

本校はこれまで、地域の特性を生かした体験活動を実施することにより、地域のかたとのふれあいを通して豊かな人間性の育成を図ってきました。自分たちが生活する地域社会と積極的に関わり、体験活動を通して学ぶ楽しさを味わうことが、地域を愛する心やより良い生き方・考え方を身につけることができると考えました。

地域の方の人材を生かした音楽体験事業として、和楽器演奏体験を設定

6年生は6月、5年生は12月に、地域の方を迎え、情操力の向上を目指して、和楽器体験を行いました。まずは、琴や尺八などの演奏を聞かせていただいた後、実際に和楽器に触れて演奏する体験をさせていただきました。琴を演奏する前には、琴の弦を想定した紙を配布いただき、その用紙を琴に見立てて練習してから、実際に琴を演奏するなど、随所に工夫をいただき、有意義な時間を過ごしました。児童は、実際の琴の生演奏を聴いて、「とても、きれいな音色で気持ちが落ち着いた。」、実際に琴を演奏してみて、「最初は音がうまく出せるか心配だったけど、地域のみなさんの指導で上手に演奏できて、良かった。」など、貴重な経験をさせていただきました。今後も、このような地域の人材を生かした取組を行うことは、児童にとって、とても大切な教育であると考えます。



今年度のまとめ

「地域の環境を生かした体験活動」「読書環境の充実」「校内および地域の環境整備事業」「和楽器体験など地域の人材を生かした学習」を柱に、学校・保護者・地域が協働して様々な取組を推進してきました。どの取組でも、ボランティアの方々にご苦勞をいただきましたが、事後、どの方も「学校に来て、元氣をもらった。」「気持ちの良い時間だった。」等の肯定的なご意見を多数いただいています。また、児童からも「昔遊びを一緒にやったのは、いつも下校を見守ってくださる方だ。」「グランドゴルフをおしえてくれたおばちゃんは、私の近所の人です。」等の話を聞くことができました。児童に自分が住む地域への関心を深め、地域の中で生きているという意識を持たせることができました。地域の方々学習活動に参加していただくことで、本校教育への理解を深めていただくことができました。

来年度に向けて

あたえられた環境の中で、活動内容を深化発展させるとともに、地域の方々との絆をさらに深め、ボランティアおよびコーディネーターの人材発掘も今年度以上に積極的に進めていく必要があります。

めざす子ども像

学びを大切にする園児・児童・生徒 仲間を大切にする園児・児童・生徒 命を大切にする園児・児童・生徒

取組目標

体験 発見 創造ひろがる「三碓学習」

児童の豊かな感性を醸成する

学習環境の整備・充実 地域の方々と連携し本物にふれる体験を

今年度の取組紹介

「三碓の町たんけん」「いのちの学習」「三碓の祭り」「むかしあそび」「伝統文化～書道」「人権と平和」「米作り」など各学年で、テーマに基づき、様々な本物に触れる活動を行いました。これも長年本校を支えてくださる地域の方々のお蔭です。

3年生は書道の指導者を地元から招き、楽しく入門期の書道を学習しました。

また、4年生は地元を流れる富雄川を学習材に、「富雄川に触れる」「富雄川を知る」ということから学習をしました。児童の「なぜ?」「どうして?」という思いから課題設定し、様々な人と関わって調べたり、実際水生生物を校内に持ち込んだりするなど探究はどんどん深まりました。児童の疑問は専門的な知識や技術が必要なこともありました。そこで様々な専門分野の方々のご協力を得、児童は本物を体験することができました。これこそ「三碓学習」です。

また、豊かな感性や情操を育む事業として、1年を通しての「図書ボランティア」活動と「校内緑化整備」事業を継続しました。



今年度のまとめ

豊かな感性や情操を育むことは、本校保護者および地域の方々の強い願いです。本事業を継続して行ってきた一番の財産は「ご縁」です。様々な専門性や人脈をもった方々との出会いから、また新たな人とのつながりが生まれました。その地域を愛する方々とともに本物を体験した児童は、地域「みつがらす」を愛し、郷土ならに誇りをもつことができました。校内緑化事業で進めている「三碓の里山」の観察池には絶滅危惧種のニッポンバラタナゴも新たな生命をつないでいます。子どもたちの自主的な花壇づくり活動も本事業で行っています。

来年度に向けて

児童の自発的な疑問や関心にどれだけ寄り添ったテーマが設定され、本物体験ができるかが新たな課題です。次年度は、さらに校内緑化事業や学習支援ボランティア事業を推進し、真に応援の必要な事業に集中的に取り組んでいきます。

めざす子ども像

学びを大切にする園児・児童・生徒

仲間を大切にする園児・児童・生徒

命を大切にする園児・児童・生徒

取組目標

「ひと・もの・こと」との触れ合いや関わりを深めることにより、「豊かな心」「やる気」を育み「しなやかな身体」の育成を行うことにより、『生きぬく力』を身につけさせる。

今年度の取組紹介

幼稚園では、講師の先生に来て頂き、年に3回お茶会を開きました。お茶の点て方やお辞儀の仕方、お茶碗を回す意味なども教わりました。また、作法だけではなく季節に応じた掛け軸や、生け花なども見せて頂き、目や香りでも季節を楽しむ事が出来ました。

お茶室には先生のお茶を点てる音と、お湯の沸く音だけが聞こえる静けさ中で、子どもたちは先生のお手前を真剣なまなざしで見つめていました。

年長組の最後のお茶会では、先生に教えて頂いた『相手を想う心』を心に留めながらお母さんに「美味しいお茶になりますように」と、心をこめてお茶を点てました。点てたお茶をお母さんに飲んでもらうと「おいしいね」「上手やね」と言ってもらい、子ども達も満面の笑顔が見られました。次は交代でお母さんにも、子ども達の事を想いながらお茶を点てて頂きました。これらの貴重な体験は、日本の伝統文化と人の心を大切にする「おもてなし」の文化を学ぶ機会となりました。



地域のおじいちゃん、おばあちゃんともふれあい交流会をしました。昔の遊びや、昔の食べ物なども聞いてみると、今とは全然違う様子が驚くとともにその頃の時代に想像が膨らみました。

その時に教えて頂いた、おはじきや、こままわし、お手玉などの遊びは、今は友だちと誘い合いながら遊んでいます。

今年度のまとめ

お話の会、リトミック、ヒップホップ教室、サッカー教室と講師の先生に一年間ご指導頂きました。地域の方々との温かい交流は、回を重ねるごとに子ども達も親しみをもち、とても身近に感じるようになりました。「次、いつ来てくれるの？」と会えるのを楽しみにしていたり、畑の様子を見に来られた時などは「こんにちは。見に来てくれて有り難う」と自ら声をかけたりするようになりました。地域の方々の優しさや温かさを肌で感じた事は、『相手を知る』＝『相手を大切に想う』事につながります。少しずつですが、最近では友達の気持ちを考えて行動する姿も見られるようになってきました。これからも地域の方々との交流を大切に、地域の中で、温かい見守りとぬくもりの中で心豊かに育って欲しいと思っています。

来年度に向けて

今後も地域の方々の協力を頂きながら事業の継続を行い、内容を見直しながらさらに充実していきたいと思っています。そして、人とのふれ合いを大切にしながら「豊かな心」「しなやかな身体の育成」をめざし、生きぬく力を身につけていけるように取り組んでいきたいと思っています。

めざす子ども像

学びを大切にする園児・児童・生徒 仲間を大切にする園児・児童・生徒 命を大切にする園児・児童・生徒

取組目標

ぐんぐん 伸びよう 笑顔 いっぱいタイム

今年度の取組紹介

- ・絵本の読み聞かせ活動は、継続した取り組みです。『絵本タイム』では月に1・2回保護者の方や地域の方に、クラス毎に読み聞かせていただきました。子どもの発達や興味、クラスの実態に応じた絵本を、庭や園の文庫から選択し取り組んでくださっています。最新の絵本や様々なジャンルの絵本を園の文庫に充実させることで、いろいろなお話に触れ、興味関心を広げ、豊かな想像力を高めました。



- ・地域の高齢者の方24名を招いて、『地域の方とあそぼう』を実施しました。自己紹介を聞いたリ、ふれあい遊びをしたり、おやつを一緒に食べたり楽しい時間を過ごしました。中でも自己紹介では、昔遊びを披露してくださる方もいて、子どもたちの心を引きつけ、憧れや親しみの眼差しで見たり自分から親しく声をかけたりする子どもの姿が見られました。

- ・園庭にある“わくわく畑”では、その時期の作物や野菜を育てています。苗や種を植えたり、水やりをしたり草抜きをしたりしながら大切に世話をすることで、収穫の喜びも格別で、苦手な食べ物にも挑戦して食べようとする姿も見られるようになりました。

栽培活動では、地域の方が度々気にかけてくださり、畑の前を通る時には毎回様子を見てくださっています。地域の方のサポートで管理や収穫がスムーズにできました。お世話になった地域の方を給食の時間に招いて、一緒に収穫したさつまいもをふかして食べる機会を持ち、親しみを深めることができました。



今年度のまとめ

- ・今年度、地域の高齢者の方の参加で新たなふれあいの機会を持つことができました。いろいろな人とのふれあいを通して、人とかかわる力やコミュニケーション力が育ち、人に対する信頼感や思いやりの心が育ってきています。

来年度に向けて

- ・豊かな感性や健やかな体の育成に向けて、内容や方法の見直しや工夫をし、定期的に指導講師の招聘や、地域の方の協力も得ながら、これまでの取り組みを継続して様々な体験を積み重ねていきたいです。